

メッシュ型流動人口検証 WG の進め方（案）

2018年11月12日
BD 連携会議事務局

1. 目的

人口統計に関しては5年に一度の周期で国勢調査が実施されているが、効果的な活用のためには、より短い間隔での情報の把握とタイムリーな提供が望まれる。携帯端末情報を利用して滞在人口を把握することが技術的に可能となっており、携帯 GPS 起因のメッシュ型流動人口データの精度検証を行い、公的統計としての利活用が可能かの検討を行う。

2. 実施内容

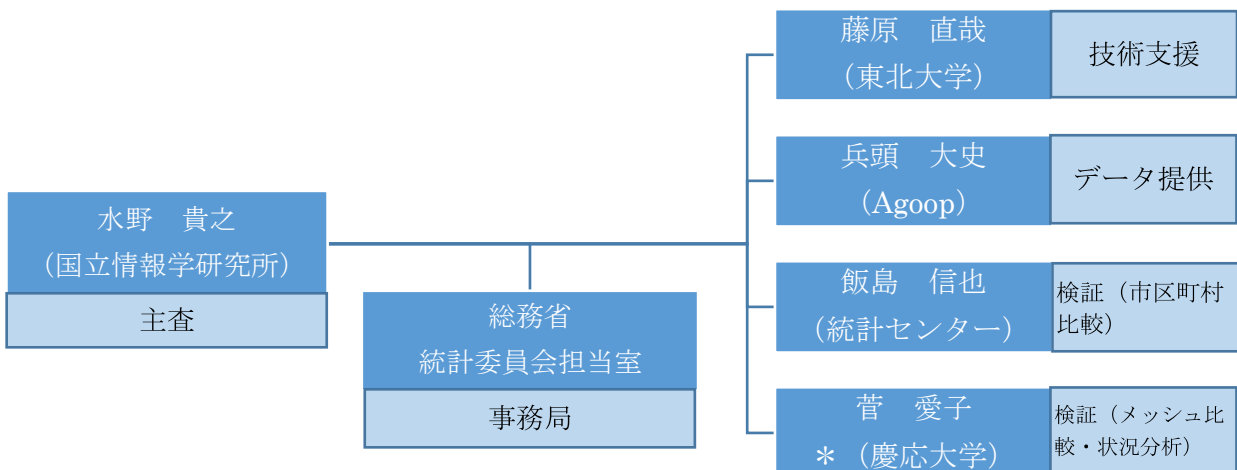
- ① メッシュ型流動人口データの比較検証
- ② メッシュデータ乖離状況分析

詳細は別紙（メッシュ型流動人口検証 WG の実施内容について、
メッシュ型流動人口検証内容（詳細））参照

3. 使用データ

- ① Agoop 社メッシュ型流動人口データ（2015年10月、2016年10月、2017年10月）
- ② モバイル空間統計データ（2015年10月、2016年10月、2017年10月）
- ③ 国勢調査メッシュデータ（2010年10月、2015年10月）
- ④ 国勢調査昼間人口データ_市区町村単位（2015年10月）

4. 実施体制・役割分担



*) WG の構成員としては「菅」のみであるが、作業メンバーとして松本・瞿・伊藤、監督者として高橋教授が担務

5. 概略スケジュール

作業項目	担当	10月					11月				12月					2019.1月				2月				3月				
		1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	4	11	18	25	
		データ準備▽					▽初回WG				最終回WG▽					統計委員会報告▽												
							▽連携会議報告(中間状況)				連携会議報告(結果)▽																	
データ検証	統計センタ 慶應大学						—————▶																					
国勢調査メッシュ比較	慶應大学						- - - - -▶																					
モバイル空間統計比較	慶應大学						- - - - -▶																					
乖離地域分析	慶應大学											- - - - -▶																
国勢調査屋間人口比較	統計センタ						- - - - -▶																					
WG報告書作成	統計センタ 慶應大学																—————▶											
ワーキングペーパー作成	メバ																										—————▶	

6. 実施にあたっての考え方

- 今年度は東京都での検証・分析を中心にを行い、状況に応じて、次年度以降に予定している全国での検証を実施する
- 検証・分析は合致しているかどうかではなく、どういうエリアでどのような合致／相違が発生しているかという視点で行う
- 結果如何に関わらずワーキングペーパーを作成するが、データ自体を評価するのではなく、データを使用する前提で、どんなリスクがあり留意が必要かという前向きな視点で作成する

7. WG 運営

- 作業状況について、事務局が検証主体よりヒアリングを行い、月に1～2回程度、構成員全体に報告を行う
- WG 会議は最低2回（初回・最終回）開催し、議事概要は事務局より構成員に共有する
- 主査より BD 連携会議に中間状況（第5回2018年12月）、及び最終結果（第6回2019年3月）を報告する

8. その他

- 事務局が提供するメッシュ型流動人口データ（Agoop）、モバイル空間統計（NTTドコモ）データ、又は国勢調査データを利用するメンバーは、別紙（提供データの利用について）にて同意書を提出

（別紙）

- メッシュ型流動人口検証WGの実施内容について、
- メッシュ型流動人口検証内容（詳細）
- 提供データの利用について

（参考）

- メッシュ型流動人口検証WGの設置について

以上